

宮古民報

2018・7・1
第1569号

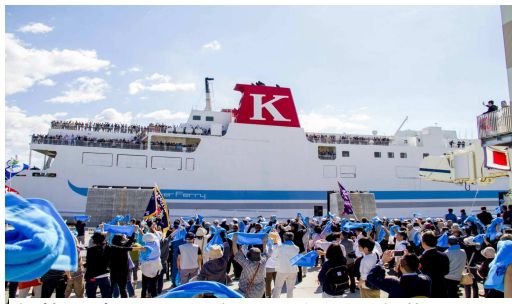
日本共産党
宮古地区委員会
市内宮町4-6-49
電話62-5808
FAX 62-3897

しんぶん赤旗
日刊紙3497円
日曜版 823円

問われる県の港湾政策

就航を復興支援につなげる

6月22日、川崎近海汽船㈱の決断で実現した待望の宮蘭航路が運航を始めました。午前8時宮古港出発となる第一便には大勢の市民などの見送りで市内からの団体客も乗船しました。



大勢の市民の見送りを受けて室蘭へ出発

市内から乗船したある人は「海を航行していきあまり、鳥が見えないのは驚いた。朝夕の食事に出たサケは銀毛で身も赤く、脂が乗って美味しかった。岩手もサケ漁は重要なので、北海道の水産界に見習ってほしい」などと話していました。

重要な運転手の休息

浄土ヶ浜パークホテル

宮蘭航路

での同会社主催の祝賀会で赤沼宏社長は八戸(苦小牧間(シルバーフェリー)の実績をふまえ、宮蘭航路成功への決意と期待をのべました。同社長は就航決断の理由を「復興支援で整備される三陸道路は雪が少なく、通行料金も無料、本州と北海道をつなぐ海の道として宮古市復興の支援につなげたい」としたほか、10時間の運行時間が「ドライバーの睡眠等休息が保障される」と説明しました。

めず、断念した経緯があります。今回、県内初の定期航路開設は当時、懸念された集荷量の確保が担保された訳ではなく、盛岡横断道路の整備等、その当時と異なるインフラ整備効果を市が、どれだけ、活かせるかが問われ

安定した集荷が課題

フェリー事業は観光客も必要ですが、主要な物流の中心は継続的な貨物です。以前の熊坂市政時には選挙公約だったフェリー就航を貨物量が見込

音楽と語り感動!

6月23日(土)夜、C

D平和コンサート「反省ごころうさん会」が開かれました。宮古市で行われた同コンサートは反響が大きく、演出、構成、語りを担当した前川慧一氏は盛岡市でも開催したばかりでした。当日は、感想と同時に次回に向けた構成を前川氏が説明、44名の感想が記された冊子が配られました。以下

はその内容の一部です。戦争を繰り返させない

○エピソードを交えたナレーターは素晴らしい。ほとんどが高齢者で、若者の参加を望む。

○初め、涙とふるえが来りました。また、懐かしい音楽をありがとうございます。

○素敵なコンサートでした。選曲と語り、そんな

声がかれました。県政も釜石港や大船渡港などと共に重要港湾として集荷等、宮古港の利用形態の確立が問われます。

「休日・急患診療所」があり、市内各医療機関の看護師不足、急性期患者の盛岡への搬送業務など改善が必要とされています。また、地域の拠点として役割が期待されている県立宮古病院には医師等医療従事者の確保が課題としています。

対策としては国保診療所の安定的運営と維持、県立病院などの医師および看護師の不足対策では奨学資金貸付・助成や医師住宅の整備に取り組む計画です。また、急性期の高度医療実現へ県立病院を始め救急医療体制と搬送体制の充実が必要となっています。(完)

過疎地域から自立へ 急性期の高度医療充実へ

3度目の変更となる市の「過疎地域自立促進計画」の事業区間は2020年度までの5か年ですが、特別事業には以下の3分野が計上されています。

- ①交通通信体系の整備、情報化および地域間交流の促進、
- ②高齢者等の保健、福祉の向上と増進、
- ③医療の確保。

3分野のうち、「医療の確保」は以下のような計画となっています。

現状は旧町村での4か所の国保診療所と1か所の出張診療所(休診中)および宮古医師会や薬剤師会との協力で運営する



前列左から3人目が前川慧一さん

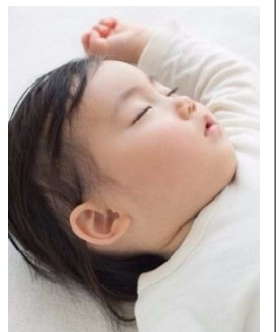
両事務組合議長を選出

6月25(月)日と27日(水)宮古市が加盟する「岩手県沿岸知的障害児施設組合」「宮古地区広域行政組合」の両議会が開かれ、空白だった議長に田中尚議員、藤原光明議員が、それぞれ選出されました。

行政組合議会の運営委員会には落合久三議員が再選されました。

漁火

負債は他から金銭や物品を借りて、返済の義務を負うこと。最近「睡眠負債」の言葉も目にする



と2晩連続で徹夜したのと同じような脳の状態とか(NHKスペシャル)その結果、病気のリスクが高まる▼それは、認知症や、がんをはじめとする命にかかわるような病気だ。昔からことわざで「寝る子は育つ」と言われたが、案外深い意味なのかも▼厄介なのは週末に寝だめしたとしても返済できないこと。対策は「眠りのリズムを整えること」つまり「快眠サイクル」の確立にあると報道された。鍵は「体内時計」を乱さないこと▼その昔、霞が関では官僚が「不夜城」のごとく仕事をしていると教わった。国会会期中はなおさら。今、国家公務員の隠ぺいや改ざん等の病は、その後遺症かも知れない。